



フェスタ 2006 結果報告と来年の日程などのお知らせ（抜粋）

今年は、「支えあい、創りあう。今、フェスタがうれしい、人形劇だからおもしろい。」をテーマに、様々な企画を展開しました。飯田のフェスタだからできるホール級大型人形劇を特集し、本当に多くの皆様にお楽しみいただくことができました。また、「人形劇的表現のいろいろ」と題して新しい表現の特集に挑み、「人形劇って何だろう」と人形による表現の可能性の追究をしたり、新たな観客層の獲得にもつながったものと確信しております。継続企画である「大人が楽しむ人形芝居」「初めて出会う人形劇」「1日まるごとキッズワールド」等も、さらに多の方々から支持をいただくことができたように思います。

2007年は、「人形劇だからおもしろい」をテーマに掲げ、人形劇の持つ特殊性を考えたいと思います。人形劇とは、俳優が自分自身の生まれ持った手段によって直接的に表現するものではなく、人工的に創造された物質的用具をかりて舞台造形するものだといわれます。身の回りにあるペンやはさみなどが突然命を与えられ、動き出してモノを言う。人間の持つ逞しい想像力の賜物と言えます。造形とシナリオ、音楽と芝居、そして明かりの総和が創り出す表現なのです。この奇想天外・摩訶不思議の世界は人形劇でしか描くことの出来ない表現方式と言えます。みる人も演じる人も、ささえる人もこのことに気づき活動できたらと願っています。

来年も皆様の参加をお待ちしております。

来年の日程 フェスタ2007 8月2日（木）～5日（日）に開催決定

テ マ 人形劇だからおもしろい

スケジュール 今年同様の準備スケジュールを予定しています。

フェスタ2006の結果概要

【概要】

1. 大手劇団によるホール級の大型人形劇を特集し大きな反響を呼んだ。日本を代表する人形劇フェスティバルとしてのグレードを内外に示すこととなった。
2. アマチュア人形劇団特集として、全国の公立劇場や団体の推薦を受けた4団体が公演。観客の関心も高く、今後の関係団体との連携やアマチュア人形劇団の活性化に繋がるものとなった。
3. 人形劇的表現にスポットをあてた、これまでにない挑戦的なステージを展開。新たな人形劇の世界にフェスタとして踏み込んだ。
4. 子どものための特別企画として好評の「はじめて出会う人形劇」「一日まるごとキッズワールド」を行い、昨年以上の反応と成果を得た。
5. アメリカのミズーリ大学35名が、約2ヶ月間の人形浄瑠璃研修（今田・黒田）の成果発表の場としてフェスタに出演し、好評を得た。
6. アジアの人形劇団（韓国・台湾）を招聘し人形劇を通じた交流を深めた。2008年のフェスティバル同士の市民レベルでの友好提携を視野に入れた調整も継続して行った。
7. セントラルパークでは、多彩なステージ構成と地域色の豊かなブースの展開によって、「お祭り広場」としての機能が強化された。
8. 総合プログラムが飯田まつり・りんごんプログラムと統合され、全ページカラー化が実現した。飯田の夏まつりとしての一体感につながった。



フェスタ2006の決算

会計監査終了後本ホームページで公開します。

フェスタ2006今年の反省から

【実行委員会各部会の反省等】

丸数字項目は反省会での対策や意見などで、実行委員会として決定したものではありません。

(1) 2006 特集・プログラムについて

大型人形劇特集については、公演の柱として十分なスケールと内容の作品を選定でき、成功だった。指定席券扱いにしたことで、当日の入場時の混乱が少なかった。Aタイプ公演で組んだため実現できた。

人形劇的表現特集については、賛否の分かれる作品をあえて選定した点は、ある意味で先進的な取り組みであったといえる。ただし、この企画に係る予算の詰めが甘かった。公演費の予算オーバーの一つの要因となった。きちんとした

アマチュアライブ特集については、全国の人形劇団との交流や情報交換、レベルの向上などに少なからず効果をもたらしたと考えられる。

フェスティバルや公立劇場、劇人の相互交流のきっかけとなればよい。

飯田市内の滞在費に限り実行委員会で経費負担したが、遠方の劇団もある程度来やすかったとのこと。

プログラムの組み方に工夫が求められる。

(2) その他公演企画全般

伝統人形芝居として「八王子車人形西川古柳座」を招聘したが、プログラムの組み方に問題があったと思われる。鼎文化センター2公演は無理があったのでは。

ミッドナイトシアターの開催時間帯について、毎年ばらつきがあり、一定のルール付けをした方がよい。裏方スタッフの増員も必要。

セントラルパークでの人形劇公演を前年より意識的に増やしたことで、屋外会場全体の人形劇としてのイメージを多少なりとも回復できたと考える。ただし、お祭りとしての華やかさとして、パフォーマンスの上演も欠かせないのも事実。公演費のバランスを考えて組み込みたい。

紙芝居の展開も、子どもの森公園だけでなく、中心市街地をメインに街頭ものを適度に組み込んでみては。

アップルタウンの歩行者空間を充実させることで、お祭りの気分をもっと高められるはず。人形劇をメインに据えつつも、幅広く楽しめるステージを提供する工夫をしたい。銀座を筆頭に、商栄会の積極的な参加を促したい。

申込締め切り後の参加申込が後を絶たないのが現状であるが、限られた公演費でプログラムする必要があるため、締め切りの厳守と、その後の受入は基本的に出来ないことを劇団側にはっきりと伝えることを来年度徹底したい。

表方スタッフの育成と、人数的な充実を早急に図る必要あり。(今年度、公演部会に女性3人が新たに加入した)

ワークショップの取り扱いに関しては、公演チケットと同じ取り扱いにしてみてもどうか。



(3) 年間スケジュール反省

AB タイプ募集要項

1 2月中旬の発送であったが、もっと早めに発送できるのではないか。

有料公演採択決定

参加申込の提出期限を越えて書類が提出されるため、時期が遅れる。ただし、必要な劇団にはこちらから事前に参加を要請するなどしておけばよいので、極力2月中旬には決定し、可否決定通知を発送したい。

会場の条件をよく劇団と打合せ、上演及び観劇環境に気を配りたい。

C タイプ開催要項

4月28日発送は、時期的に遅すぎ。早めの計画と進行で、遅くとも3月下旬には発送すること。各種提出期限日の設定をよく吟味し、広報の材料を早めに提供できるようにすること。

地区公演割付

地区実行委員会の主導で今年もスムーズにスケジュール進行できた。

本部公演 (B 及び C タイプ) 割付

C タイプ劇団については、地区公演で該当しなかった劇団を空き時間のなかで、半ば無理やりに組み込まざるをえないケースが多く、非常に苦慮する。基本的には参加の申込がされた以上、よほどのことがない限り、どこかの会場で上演いただくことがこれまでの慣習的なルールであった。翌年以降は何らかの策を講じたい。

会場の増はもう限界と判断できる。会場の精査と日程調整を早めに行い、公共交通と徒歩の組み合わせで完結できる範囲での公演の展開としたい。

A 有料公演を含め、出来るだけ上演時間帯が重ならないように、プログラミングに気を使いたい。

公演部会メンバーの期間中担当割付

表方責任者としての役割を果たす必要性もあるし、各会場の公演が予定通り進行しているかなどを目で見て確認する作業も必要と思われる。期間中、実働可能な実行委員の増員が必要。

2. 交流部会から

(1) オープニングセレモニー

交流部会として何回か経験があり慣れてきたこともあり、全体としては良かったのではないかと。ミズーリ大学他のお客さんがフレンドリーな雰囲気を作ってくれて良かった。

(2) 海外劇団招待レセプション

交流部会として何回か経験があり慣れてきたこともあり、全体としては良かったのではないかと。ミズーリ大学他のお客さんがフレンドリーな雰囲気を作ってくれて良かった。

海外の方が突然想定外のお客さんを連れてきたり、北海道こぐま座の方が来られたり、名札や席・弁当の用意の面で多少とまどうこともあった。レセプションは海外のお客様なので、想定外の人を連れてくることもあるので、フレキシブルに対応できるように心掛けたい。

今年は、一人毎の弁当を出したが、弁当の中身が1000円という制約もあり、あまり良くなかった(高松委員長も強調している)。来年度は、海外や日本の方が想定外のお客さんを連れてくることも考えて、むしろ昨年のような盛り合わせにした方がいいのではないかと(委員長招待の性格があり、委員長の意向も聞く)。

受付を香山部長がほとんど一人でやっていたため、対応がかなり難しかったので受付は数人で行ったほうがいい。

この演奏は好評だった。ミズーリ大学の学生が大変興味を持って琴に触れるなど日本文化を紹介する良い機会が持てた。

レセプションについては、交流部会が担当しているが委員長招待レセプションであり、今年は正副委員長会を開いてもらって検討した。ただ、やはり交流部会の意向のみで行うことができず計



画・運行の面で難しいことが多い。

(3) おいなんよサロン

今年は、交流部会で笹などの飾りつけをして会場が賑やかになって良かった。

丸山婦人会「かざこしのはな」の公演が、おいなんよサロンで毎日昼 12 時から行われ、賑やかになっていいが、反面お昼時で混雑するため時間を早めるか後にするかずらした方がいいのではないか。お昼時には、もう少しおいなんよサロンとしてくつろげる余裕が欲しいのではないか。

(4) わいわいパレード

フェスタ前の練習の時、大型人形の首の根元が折れてしまったり、当日魔女の心臓棒（手で持つ物干し竿の部分）の針金がとれてしまったりで慌てた。大型人形のメンテナンスに気を配りたい。

わいわいパレード大型人形の持ち手を公募したが、親子 2 組だけと非常に少なかった。公募するだけでなく、なんらかのターゲットを絞って働きかけなどをする必要と思われる。着ぐるみなどは、今まで同様パークの屋外催事（着ぐるみ）の人が中心になった。

本来、アイパークで出発式を終えた後、中央通り 4 丁目の多月や八十二銀行の辺りで大型人形・劇人・大型人形と隊列を組むはずだったが、今年はアイパークの中だけ隊列を組んでしまい、パレードの出発のタイミングが判りにくくなってしまった。また、そのためかパンフレットなどに飯田消防音楽隊がわいわいパレードを先導するように記載されているのに、出発の段階で音楽隊とかなりパレードが離れてしまい、間が抜けた感じになってしまった。

先導は担当が行ったが、パレードの隊列が長く間延びしてしまう場面があった。

以上の出発時の隊列の組立てから最後のセントラルパークまで、パレードをうまく誘導する人・方法が必要であり、来年はきちっと行いたい。

パレードは、先頭が横断幕（「わいわいパレード」）のみであり、音楽などがなく寂しい感じがするので、先導部分でフェスタソングを流すなど音楽的に工夫をすることが必要だと思われる。そのため、フェスタの備品として動かせる音響設備の購入はできないだろうか。

(5) お別れパーティー

パーティー費用 850,000 円

参加者：399 人（一人あたまた 2,130 円）

負担金：大人 300 円 × 269 人 + 子ども 100 円 × 130 人 = 93,700 円

今年も料理があつという間になくなってしまったので、料理が少ない感は否めない。ただ、会費が少ないわけだし仕方がない。

未成年者も多くアルコールを出すのは控えた方がいいか？ やはり大人が多くアルコールなしという訳にはいかないだろう。

国内劇団の参加者が少なくなってきている。喜多方フェスへ行ってしまったのか？国内劇団の人は、地元スタッフの慰労パーティーとして遠慮しているのか、もしかすると昔のカーニバル時代のお別れパーティーとのギャップを感じているかもしれない。

今年は手を掛けて名札を作ったが、特に必要ないかもしれない。

3. 広報部会から

(1) ポスターに関すること

デザイン性 / コンペ形式の是非 / 配布時期 / 部数 / 2007 年方針

特定のデザイナーに業務委託する形で、実行委員会側の意向をある程度明確に反映させた作品を作り上げることもひとつの方法と考える。

1 種類のポスターにこだわらず、2~3 種類作成し、配布先によって使い分ける工夫などもしてみよう。

ポスターの配布時期は、大型人形劇など、チケットの先行発売の時期に合わせておくべき。せめて、販売店や公共施設等には掲示すべき。（印刷時期：4 月初旬）



ポスターの印刷時期に合わせて、協賛企業等の確定を早めに行う。

部数は例年並みでよい(1200)

2006のデザインは、キャラクターのかわいらしさが非常に好評であった

(2) ワッペンに関すること

一般ワッペン・・・公募方法/時期は/2007年方針

全国公募を継続しているが、応募数が減少気味。ただし、ワッペンデザインの質としては悪くはないので、今後も継続すべきと考える。

水引ワッペン・・・デザイン性/選考方法/発注枚数/価格/2007年方針

劇人用のものであるため、特に問題が出ているわけではなく、今後もサービスの一環として、喜ばれるデザインのものを提供してゆくべき

(3) 有料公演チラシに関すること

内容・構成/配布時期/印刷部数/配布先/2007年方針

メインの内容は、特集の3本柱が早くから確定していたため、充実したものになった。

チラシの構成は今回のような形でよい。有料公演以外の話題提供をこのチラシでいかに行うかも重要で、そのためにも全体の骨子(企画ものなど)を2006年末までに固めておく必要がある。

作成時期であるが、開催要項に同封して、早めの広報をしないとチケット売り上げが伸びない。したがって、2007年は2月末に原稿入れを出来るよう、早めに劇団の選考等を行うべき。(公演部会へ要望する)

(4) 総合プログラムに関すること

内容・構成/配布時期/印刷部数/配布先/2007年方針

16ページ構成のうち、フェスタ持分については、概ね内容的にも評価できる。ただし、ガイドブックとの住み分けをいかに明確化させるか、検討の必要あり。

カラー版にしたことで、視覚的にインパクトのある仕上がりとなった。

パーク内のブース配置図がわかりにくい。パーク内上演のタイムスケジュールの枠を縮小し、エリア内の配置図を大きく表示したほうがよい。

配布時期を早めたほうがよい。2006年は、意図的に7月中旬配布にしたが、インターネットサイトでの検索環境がない方が多く、ペーパー化されたものでの希望が多く見られた。Cタイプの組み込みを出来るだけ早く行い、少しでも早い時期に全国に向け情報発信したい。(公演部会へ要望)

(5) 公式ガイドブックに関すること

内容・構成/配布時期/印刷部数/配布先/2007年方針

劇団名鑑としての役割を持たせることが出来なかった。

長年フェスタに参加されている方にとっては、ガイドブックがすべて!というケースが多く、名鑑としての位置づけをしつつも、例年並みの情報は掲載すべき。ページ数や台割などの精査が必要。

(6) ウィンドウ人形展に関すること

内容/準備期間/2007年方針

ウィンドウ人形展用の人形を保管する部屋の確保を早めに行い、途中で部屋を移動するなどの無駄な作業をなくすこと。(2007年は7月12日から確保)

希望調査の時期は4月下旬でよい。

(7) インフォメーション

配置方法/期間中の業務内容/2007年方針

3箇所のインフォメーションをローテーションで回る配置割りをすると全体の現場の様子が見えるので効果的。

当日のインフォスタッフ不足。しっかりとした対応ができる方をスタッフとして3~5名確保



したい。

チケット販売ブースと隣接しているため、お客様からも「わかりにくい」との声がある。チケット販売ブースとの位置関係を検討してみるのも一考。

食事の出来るレストランや食堂の案内を求めるケースが多く、「まち歩きマップ」を始めとした総合的な案内チラシを用意する必要がある。また、丘の上の食堂などの入り口に、フェスタのバナーやのぼりを掲げるなどの工夫が必要か。

シャトルバスの最終運行に同乗した添乗ボランティアスタッフは、停留所の案内看板に「本日の運行は終了しました」の表示紙を貼るとよい。何時まで運行しているかの問い合わせが多かった。

(8) モデル観劇コースの提案

内容・構成 / 2007年方針

初めての試みであったが、好評であった。ただし、有料公演以外のパターンもいくつか用意したい。

(9) 携帯電話サイトを使った公演案内サービスに関する事

内容 / 2007年方針

利用頻度の検証が出来なかったが、おそらく今後は、こうしたWEBサイトを利用する世代が多くフェスタに参加してくることが予想されるため、整備を進めてゆく必要あり。

ジョイント公演の記載方法が難しい。

(10) 各種広報媒体による広報宣伝に関する事

信濃毎日新聞 / SBC / 週刊いいだ / 月刊いいだ / 広報いいだ / 地方誌 / いいだ FM / ICTV / NHK ほかテレビ局 / 中日新聞

信毎の広報協力が県内(中北信)への集客へ大きな効果をあげたと思われる。

SBCのUパレードについて、天気がよかったため、映像として非常によく映っていた。オープニングセレモニーの中継のおかげで、「テレビをみた」といって県内からお客様が何人も来てくれた。ただし、飯田へ来られた際に、ちょうどよい人形劇の公演がなかったらしく、残念がっていたとの声も聞こえた。

週刊いいだ、月刊いいだは、フェスタ関係の特集記事を各3回連続で掲載するため、効果的な掲載内容を早めに検討し、材料を集めることが重要。同じような記事を重ねないことが課題。

新聞への記事掲載に関しては、特にパブリシティとして無料掲載いただける部分をもっと有効利用すべき。今回の大型特集の連載記事などは効果的であったはず。

中日新聞をはじめ、中京方面へのアプローチを真剣に検討すべき。膨大な人口を抱える中部大都市圏をマーケットとして押さえるべき。川本美術館のPRとうまく抱きあわせて大きく集客アップを図る。

(11) その他

2007年はインフォメーションTシャツをつくって一体感を出したい

4. 総務部会から

(1) ボランティアスタッフの募集

本部スタッフ数 452 人、一般 209 人、学生 243 人(中学生 178 人、高校生 43 人、その他 22 人)

* 2005 年 396 人(一般 174 人、学生 222 人)

- ・ 学校説明会の実施... 3校のみ(高陵中、西中、竜東中)
- ・ 募集期限(6月30日)から全体研修会(7月8日)までの期間が短く、募集期限をもう少し早くすべきか。

(2) ボランティアスタッフ研修会について

7月8日(土)午後2時~飯田市公民館、7月9日(日)午後4時~飯田文化会館

7月16日(日)午後4時~ "、7月17日(月)午後4時~ "、



参加率 81% (279人中 227人) *但し、7月17日までの研修会まで

7月8、9日は、風越祭と重なったこともあり出席者が少なかったため、来年は中学、高校の土日行事を事前調査する必要あり。また来年は人形劇場でも開催可能と思われる。

募集期限(6月30日)から全体研修会(7月8日)までの期間が短く、募集期限をもう少し早くすべきか。

研修会でいった寸劇は好評だったと思われるので、来年グレードアップして行いたいとの意見がある。

(3) ボランティアスタッフの配置について

スタッフの人数配置のバランスが悪い場面があった。また、毎年スタッフ参加しており、その人にふさわしい配置場所があるにもかかわらず、それが生かされずマイナスとなることもあり、よく吟味して配置を考えたい。

公演表方スタッフが足りない公演があった。特に夜の公演は公演数も多く、中学生が従事できないことや市職ボランティアスタッフが選挙の影響で少ないこともあり、スタッフ数が全体的に不足し苦慮した。来年は、高校生や大人のスタッフを充分確保することが重要課題である。

今年は、当初スタッフの管理を行うために「ランチスタッフ」を「サポートスタッフ」に変更してその役を担うことにしたが、スタッフの管理が充分できたとは言えない。来年は、もっと工夫が必要。

(4) グッズ販売について

総売上額 560,501円

来年は、Tシャツのデザイン一新を図りたい。

手ぬぐいは好評であったが、色的にエンジ系を増やしたい。

5. パーク運営委員会から

(1) フェスタの顔・表看板

昨年よりもよりいっそう顔としての役割を果たすことが出来たと思う。フェスタの意図すること、またセントラルパークの位置付けを、講習会やミーティングなどで繰り返し伝えることで学生ボランティアスタッフなどはしっかりと理解してくれました。そして、それに沿った行動をとってくれました。

ステージもイメージを一新して機能性もアップした中で円滑な運営が出来た。

インフォメーションも昨年以上に明るい雰囲気や挨拶などもしっかりとでき、接客という意味をよく理解した中で行なわれていた。

明るく楽しいフェスタという雰囲気は良く出ていた。

その年のテーマなどを表現する場としては・・・

ステージMCなどの進行上でしっかりと意識して行なった。(MCの二人はとても頑張った!)

日本中・世界から来てくれた人たちに飯田、南信州を知ってもらう場として、地元特産品(信州牛など)を扱う店、また新規の参加もあり飯田、南信州の色はより出てきた。お客さんもそういうことに反応する方が多い。広域連合、JCなどの団体としての参加をより強化していきたい。来年以降も拡大していきたい

分散して全体像が分かりづらい各部会の仕事のシミュレーションの場(縮図的)として、機能は果たせたように思われる。

今までに取りづらかった部会のコミュニケーションの場として、部会が協力して物事を作り上げるという実感が出来た。昨年以上に実行委員同士の密な関係の構築に役立ったと思う。

(2) 実際の運営の中で気づいた事

オープニングも非常に多くの人で盛り上がりパークの充実を感じた。

ステージがとても使いやすく良くなり今後の公演にも期待が高まった。



準備の時に高校生スタッフの食事の用意を考える。

8時を超える場合は夕食の手配を考えるべきでは。

熱中症、過労等の健康管理を専門に担当するスタッフも必要かと思われる。

(仕事に熱中すると誰もがそのことに対して無頓着になってしまう)

ごみについては目だったトラブルも無く会場をきれいに保つことが出来た。

(飯田りんごんの時もこまめにゴミ拾いをすることで維持できた)

トイレの清掃、ペーパーの補充等について決めておくべき。

身障者の方のためにステージへのスロープが必要か

事務局からのお知らせメールをほしかった。(去年は嬉しかったので)

ステージ近くに一日のプログラムを表示したい。

ステージ横(上)に現在の演目の表示をしてもらいたいとの意見があった。

噴水のスイッチの操作(公演によってオン、オフ)を期間中はできるようにしたい。

昨年同様感じたこととして、空きテントのディスプレイ(当日入っていないテント)を充実したい。

(3) 2007へ向けて

看護師を配置するなど救急体制の充実を図りたい。

パークステージの観劇者数は8千人弱となつてはいるが、パークに訪れる人の数を示しているわけではない。把握のため定期的に入場をカウントするなどの確認をしてみてもどうか。

今年パークステージの設えは大幅に改善されたものの、費用対効果という意味ではもっと工夫できるのではないかと。(現状ステージにこだわらないセッティングなど)

本町1の拠点との連続性のために、公安等との協議を早々にはじめる。

パークではボランティアが育つ環境がある。一日自ら考え行動している。そのために過労なども生じた。公演表方スタッフのようにワンポイントの従事とは違う。このパークの人材育成機能に着目し、ボランティアがパークで育ち各公演会場を受け持つというような流れをとってみたい。当面2つのグループに分け、1グループが人形劇場を受け持つような形をとってみたい。

6. 地区実行委員会から

(1) 地区公演のプログラム編成について(5/16, 17)

Bタイプの配分を考えたい。(いくつも観劇できる地区と観劇数が限られる地区への配慮)

5日(土)午前中の公演が多く、6日(日)の公演が少ない。今年度は特に選挙の関係もあって、地区内でも重なっているところが多かった。そのためか観劇者が少なくなったところもあったようである。最低でも地区内の調整が必要と思われる。

来年度会場調査と上演登録証の提出日程をもう少し早めて、調整できるとよい。

(2) 会場運営責任者会(5/23)

DVDの上映はわかりやすく良かった。

運営方法がわかりにくいので、パワーポイントや運営ビデオを作成するなどの工夫が必要である。会場責任者会での連絡事項を各地区で徹底できるようにしたい。

(3) プレフェスについて

フェスタ期間前に雰囲気盛り上げ、市民の意識を高めることができて良かった。時期も良い。

特に初めての南信濃での開催は、良いPRとなった。

ワッペンの売上げにも貢献した。

ワッペンだけでプロの公演が観劇できるためか、年々増える傾向にある。来年度更に増えた時の対応も考えていく必要がある。(開催会場や入場制限とか?)

(4) 地区企画公演について (事業採択地区; 5地区8企画)



高齢者向け公演など新しい観点での企画がでた。今後も地域が元気になるような企画を出したい。企画公演は地域づくりのチャンスととらえ、地区の企画力をつけておくことが大事（調整委員会で早めに検討し、各地区へおろしていきたい）

（５）地区公演の課題と思われること（参加者の声や、各地区の様子から）

地域づくりとしてのフェスタ地区公演の位置づけ

地区分散公演として各地区で開催している意義（各地区実行委員の意識）

フェスタの基本理念の共有化

ワッペンが高いという観劇者の感想が多い。また、実行委員の中にもワッペン購入に対して抵抗のある人も少なくない。

「みる・演じる・ささえる」のフェスタの基本理念が実行委員や観劇者になかなか浸透しない。

ワッペンは、観劇料ではなく参加証であるという認識をいかに高めていくのか。

地区企画公演のあり方

目的の再確認を

内容および補助金申請要項の検討（地域づくりや芸術文化活動振興の観点から内容を検討し、補助金対象についても幅広く検討していきたい。（新規企画や期間外への補助拡大など）

本部企画公演との連携

その他

適正な公演数や会場数についての再検討の必要性を考えたい。

（６）検討及び提案したいこと

700円のワッペンの満足度をアップさせるために

a. 各地区の上演日程等の調整

b. 地区企画公演の充実（1日まるごと公演など）

c. プログラム編成の工夫（Bタイプの配分）

d. ワッペンの活用（フェスタ期間以外の公民館事業等への活用）

e. ワッペンの割引（ファミリー割引などにすると、家族参加が増えていく？）

人形劇のまちづくりとして、年間通じての事業展開ができないか。（期間外の地区企画公演等）

7. 各地区反省会での意見から

省略（ホームページに掲載）

8. 観客アンケートから

毎年ご指摘いただく「冷房」については、扇風機や公演時間の工夫などによる対応のほか、施設管理者に対し整備の要望をしてゆきたいと思えます。ワッペン及び有料公演チケット料金については、1,500円～3,000円といった他市地域での公演チケット料金の実態をご理解いただくとともに、公演内容の充実や観劇機会の適正確保により、ご満足いただけるよう努力して参ります。会場運営につきましては、マニュアルを作成し、対応しておりますが、研修機会を適時設け、徹底して参りたいと考えております。小さなお子様をお連れのご家族様にご利用いただける休憩所等の設置に関しましては、冷房及びおむつ替え設備の整備された会場を今後も確保して参ります。その他、様々なご指摘に対しまして真摯に受け止め、改善に向けた努力を続けて参りたいと思えます。

省略（ホームページに掲載）